

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670100940		
法人名	株式会社 東北医療福祉システムズ		
事業所名	やすらぎ苑 山形		
所在地	山形市松波一丁目11-8		
自己評価作成日	平成22年 9月 1日	開設年月日	平成13年 1月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。（↓このURLをクリック）
（公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。）

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 22年 10月 5日	評価結果決定日	平成 22年 10月 25日

(ユニット名 ベにばな)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事・レクリエーションには、利用者や家族、地域の皆様楽しんで頂けるよう力を入れて取り組んでいます。特に、お花見会や日帰り旅行、夏祭りなどは、皆様から高く評価頂いております。
また、西藏王に畑を借り、種まきに期待を、成長には楽しみを、収穫には喜びを味わいながら、畑作業に精を出しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

創立10周年を迎え、山形市で3番目に出来た歴史ある事業所で、当時から理念を根底に、管理者はじめ立ち上げの時から歩んだスタッフもあり、年月と共に中身も成長している事業所です。また同時に家族会も発足され、花見、夏祭り、いも煮会、日帰りバス旅行等、恒例行事となって利用者、職員と一緒に楽しんでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に理念を読み上げ意識付けを行い共有のものにしている	10年前の開苑時からの3つの理念を継承して共有し、「生き甲斐づくり」を応援するということを念頭におき、その人らしい生活を送れるよう支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	挨拶などはもちろんのこと、当苑の行事などにお誘いして参加を促し交流の機会を作っている	目の前の公園で開催されている保育園児の運動会見学に出掛けたり、防災協力員の申し出や行事等のボランティアの来訪も多く、様々な形で地域との交流をしている。西藏王に畑を借り、協力を得ながら季節毎の収穫の喜びと食することの喜びを共に味わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の参加やボランティアなどの協力を得る機会が多く理解出来ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2か月1回)開催し、意見交換を行いサービスの質の向上につなげるよう努めている	事業所からは報告や状況説明があり、その都度テーマに添って話し合いが行われ質問を受ける等、回数も重ね活発な意見交換の場になっており、双方向的な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回、介護相談員が来て実際の生活などを見てもらい、意見交換やアドバイスなどを頂いている	市の担当者とは相談や情報交換等の連携をとっている。介護相談員の定期的な訪問もあり、利用者とも顔馴染みの関係になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束はせず、玄関は常に自由に出入り出来るように施錠はしていない。徘徊時などは個別ケアに徹している	職員は身体拘束をしないケアを理解し、実践に向けて取り組んでいる。玄関は日中施錠せず、職員は見守り役を当番制にして連携をとりながら、声掛けや見守りを大切に捉え、安心して過ごせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	問題があれば、職員間で話し合い相談し、防止を心かけている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	別ユニットに成年後見制度を利用している利用者がいるため、後见人より話しを聞く機会がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が十分説明し、納得してくれているためトラブルなどはない		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会総会などで要望を聞き、出来るだけ意見を反映させている	創立時から家族会があり、花見、夏祭り、いも煮会、日帰りバス旅行等、利用者と一緒に参加する行事も多く、気軽に話し合えるような信頼関係を築き、それらの意見を共有し、サービスの向上に活かしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者との意見交換をもう少し充実させていきたい		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者の説明責任不足におちいらないよう明るい職場環境維持していきたい。希望休みを取れることはとても有難い職場環境である		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数などを考慮し、個人に合った研修に参加し、伝達する機会(ミーティング時)を設けている	看護師である管理者による内部研修が充実しており、外部研修も職員の段階に応じて交替で参加し、研修報告は毎月の全体ミーティングで発表し共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修への参加、研修会への参加などで他施設職員との情報交換することで、向上できるよう取り組んでいる	グループホーム連絡協議会主催の交換研修会に参加し、他の事業所と情報交換することにより、マンネリ化を防ぎ新しい発見に繋げている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接や、当苑での面談で現状を把握し、安心して生活していけるよう信頼関係を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接などで、家族の話を傾聴し不安なことは解消できるよう、要望は対応できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時や、入居申し込みの際、話し合いの中で対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は職員と一緒にいき、特技の発表の場を設けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は本人と家族のコミュニケーションの場を設けており、また行事参加を促している		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は特別な制限はなく、知人などもよく来苑される。以前からの行きつけの床屋を利用している利用者もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	10時・15時のお茶の時間には、食堂に全員集まり体操やレクリエーション活動を行っている。居室間の行き来も自由に行っている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に管理者が親身になり行っている。入院になった利用者への面会に行き関係の継続を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中で、希望や要望を聞きだす工夫をしていて、それをもとにカンファレンスで検討しプランに取り入れるようにしている	日々の関わりの中で声掛けを工夫し、会話の中に出てくるちょっとした言葉を聞き逃さず、また意思疎通が困難な方には表情や仕草から汲み取り、確認簿にメモをし職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの話しや、アセスメントシートを活用している。これまでの生活で使っていた私物の持ち込みもすすめている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	伝言ノートや個人記録の活用、カンファレンスでの報告、連絡を徹底している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の参加したカンファレンスはないが、事前に要望などを聞きプランに取り入れるようにしている。ユニット職員でカンファレンスを行い現状に合ったプランを作成している	2階の「さくら」は階段を利用する為、上り下りは身体状況の目安の一つになっている。担当職員を中心に利用者の希望や思いを取り入れ、少しでも上を目指し、共に喜びを味わい、望む生活が出来るようにその人らしい介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を詳細に記入している。詳細に記入することで、いつ誰が見ても分かるように記載し検討に活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れや、行事の時は招待している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2W1回、かかりつけ医の往診と、緊急時にはかけつけてくれる。信頼している医師で、隣にクリニックがあるため心強い	眼科・皮膚科の通院介助は家族となっており、かかりつけ医への受診は職員が付き添い、また定期的な往診もあり笑顔に繋がる馴染みの関係になっている。受診結果は家族へ報告し、職員も共有しながら安心して受診できるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変があれば看護師に報告し、適切な指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側には、早急のサマリーの提出や情報交換を念入りに行い、退院後はリハビリが必要な時は対応できる体制を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者が段階的に家族に現状説明、理解を求める話し合いの場を設けている	事業所の指針・方針を説明し、入院が長引いた場合等や状況の変化に応じ本人家族等と話し合い医療機関と連携を図っている。看護師でもある管理者を中心にチームで共有し確認しながら取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日赤の救急研修を受け、心肺蘇生法を身に付けた		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や、月2回の避難経路訓練を実施している。災害時協力者は3名確保している	消防署立会いの元、年2回の総合訓練や利用者と共に月2回は避難経路を確認する訓練を実施している。地域の防災協力員3名は確保されており協力体制は出来ているが、地域への働きかけが少ないように感じられる。	訓練を事業所のみに留める事なく運営推進会議等を通し3名の防災協力員を含め、地域に働きかけ可能な範囲で訓練に参加してもらい、その気付きを災害対策に反映させる等地域との協力体制に繋がるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを配慮して、言葉かけは職員間で気を付けている。トイレには男子便器の前にカーテンを設置している	一人ひとりの利用者と一日一度は会話をすること心がけ、訴えの困難な方には筆談や、見てもらい決定ができるよう対応している。理念にあるように尊厳を大事にし、日頃の声掛け等に配慮しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で思いや希望・要望を聞く工夫をし、自己決定ができるよう促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人の得意分野を活かした活動、作業などを行っているが、時には職員の日課が優先してしまうこともある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	限られた中で、TOPに合わせた服装を促している。重ね着などあればさりげなく声をかけ支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下処理の簡単なものは、職員と一緒にやっている。年に3～4回くらい回転寿司などの外食にも出かけ楽しんでいる	誕生会には利用者の希望メニューを考慮したり、また苑の畑で収穫した旬の物を取り入れ、準備から一緒に行ない、食事作りをしている。外食や月2回は刺身の日もあり、共に食卓を囲み美味しく食べ食事が楽しみなものに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事量を提供している。水分不足の方や、少食の方には栄養補助ドリンクなどを提供している。摂取量表の活用も実施している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず歯ブラシにて口腔ケアを行っている。介助を要する利用者は職員と共にやる		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全員トイレでの排泄。パット使用者には定時でのトイレ誘導をすることで尿失禁を未然に防ぐよう取り組んでいる	チェック表を使用して一人ひとりのパターンを把握し、さりげない前誘導を行ない、全員トイレでの排泄を大切にしている。夜間頻尿の利用者は時間を見て定期的に誘導する等工夫が見られ、現状維持が保たれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、便秘がちな利用者には牛乳やセンナ茶を提供し、自然排便に繋げている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午後入浴となるが、週3回は入れるよう取り組んでいる。入浴剤の使用や個人の用具(軽石やシャンプー用ブラシなど)使用など個人の状況に合わせた入浴を行っている	入浴時間は午後の時間となっており、利用者の希望に合わせた支援をしている。季節に応じ菖蒲湯や入浴剤等を使用したり、また身体的に困難な利用者にも配慮をしながらくつろいでゆっくり入浴できるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムに合わせた就寝・起床を行っている。日中は、ソファやクッション使用で、居室外でも休息が取れるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬の説明書は個人記録ファイルにとじていつでも確認できるようにしている。服薬時には名前を確認し手渡しで服用を見守っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を活かし、個々の能力に合った事を行っている。家事活動やドライブ、散歩、ハーモニカ演奏、唄、買物など		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	衣類の買物など要求があれば一緒に出掛けている。日用品の買物なども声かけでよく出掛けている。行事も充実していて、旅行や外食やお釜ドライブなどを実施	日常的には近くの公園までの散歩や日用品・嗜好品の買い物に出かけたり、天気の良い日は苑庭で弁当開きをする等生き生きと過ごしている。年間行事の家族旅行やドライブ、蔵王のお釜を観に行ったり、また困難な方には苑内で美味しい食事を提供する等の配慮をしながら支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理している利用者は数名。自由に買物をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族には定期的に電話の支援を行い、会話できるよう努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にそったインテリア・展示物の工夫を実施。食堂窓から公園の桜の木が見え、花から新緑・紅葉・雪景色など一年を通して楽しんでいる	玄関には季節感を感じる装飾や書が飾られ、畳敷きの事務室には丸テーブルが置かれ、自宅と変わらないように感じられる。所々に置かれたソファではゆったりとくつろぎ、二階の談話室では猫と一緒に過ごせる癒しの場となっており、思い思いに過ごす事が出来る空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室の出入りは制限せず自由で、気の合う物同士過ごしていることもある。ソファや椅子も所々に設置し活用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れたタンスやベッドなど持ち込みに制限はなく、好きな景色のポスターや芸能人のポスターなどを貼り、快適に過ごせるようにしている	本人の意向に合わせ、寝具、筆筒、テーブルには好きな鉢植えを飾り、家族やペットの写真等、馴染みの物を活かしその人らしく暮らせる部屋となっている。手摺が取り付けである等の工夫が見られ、居心地のよい居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	古い建物で階段や段差などが多いが、逆にリハビリにつながることもある。快適に過ごせるよう工夫している		